

平成23年度 輪之内町立仁木小学校 学校評価書

<b>学校の教育目標</b>	<b>ひろい心もち、豊かに表現できる子</b> ○学びつくりだす子 ○思いやりあふれる子 ○たくましくきたえる子	
<b>経営の重点</b>	<b>自立の基礎を培う教育の推進</b> ・しっとりとしてそれでいて勢いのある学校 ・知・徳・体の調和のとれた子ども ・ふるさとに自信と誇りをもった子ども ・一人一人を大切にす教師	1 職員の総力を結集した運営組織の確立 2 人間性を磨き、教師としての専門性を高める研修の充実 3 学校の教育目標の具現に徹し、学校や地域の特色を生かした創意ある教育活動の推進 4 豊かな心を培う活動と成就感を味わうことができる指導 5 家庭や地域社会との連携の強化

町の重点	評価の観点	評価	成果	来年度の課題と改善策	学校関係者評価（意見）
<b>【学校経営】</b> 全教職員が協力して活力ある学校経営をする。	<b>1 &lt;特色ある学校&gt;</b> 新学習指導要領の趣旨を踏まえ、教職員の共通理解のもと、子どもたちや地域の特色を生かした創意ある教育課程を編成・実施する。	B	・総合では、地域の博士から学ぶことができた。 ・達成感や充実感を味わうことができた。 ・研修をもとに、飛散防止フィルムや者の固定など、具体的な動きで対応できた。 ・様々な行事や機会を通して、子どもたちの姿から学校の教育活動を観ていただけた。 ・推薦図書や3色読書を通して、様々な分野の本を読むように意識づけることができた。	・「特色ある教育」を充実させていくために、総合的な学習や情報教育の再点検が必要である。 ・不審者対応の訓練や連れ去り防止教室等、危機管理教育は重要で、継続的に児童の危機意識を高める取り組みが必要。 ・新しい年間指導計画・単元をふまえた図書館活用計画を作成する。 ・効率良く貸し出し返却、管理ができるようにバーコード管理できないか。 ・図書は借りているが、読書の質的な低さが目立つ。学年相応の利用指導を行いたい。	・校長先生の「夢をもつ」子どもは目標をもってれば自分の特技を發揮する。学校の中で一人一人が力を發揮できる教育がなされているか、どこで、いつ花を咲かせるか個人差がある。学校は場を用意してやってほしい。 ・下校の時、だんだん離れ、班がばらばらである。外で遊べない分、遊ばせたい。 ・新聞の活用で、朝のスピーチをきっかけに新聞を読むようになった。 ・文字を読むことを大切にしたい。
	<b>2 &lt;危機管理&gt;</b> 児童生徒の安全確保を考えた学校の環境を整え、事件・事故の未然防止に努めるとともに、災害に備えた対策を進める。	B			
	<b>3 &lt;開かれた学校&gt;</b> 開かれた学校づくりを積極的に進め、児童生徒・保護者・地域住民の評価を生かした学校経営を推進する。	B			
	<b>4 &lt;図書館教育&gt;</b> 学校図書館が利用しやすく整備され、図書の計画的利活用や読書活動の推進に取り組む。	B			
<b>【研修】</b> 自己の課題を明確にし、主体的に研修を進め、確かな指導力を身に付ける。	<b>5 &lt;校内研修システム&gt;</b> 校内の主題研究を明確にし、教師としての専門性や確かな指導力を高める研修を主体的に行う。	A	・職員研修を行い、電子黒板やソフトの使用法を学べた。 ・校内研究会を通して、子どもたちへの支援の仕方を学ぶことができた。 ・分かる授業のために、デジタル教科書や実物投影機を活用できた。 ・初任者研修で授業を公開することで再度自分の授業づくりについて見直すよい機会となった。	・まずはカリキュラムの熟読を心がけたい。その上で、児童の実態に合わせて、内容や指導の仕方を開発していきたい。 ・学んだことをいかせるような環境整備が必要。（1階には電子黒板を持って行けない） ・自己啓発シートを手元も持って、常にその内容を振り返りながら、日々実践していきたい。	
	<b>6 &lt;個人研修&gt;</b> 一人一人が個人研修課題を明確にし、具体的な目標と方策をもち、教師としての資質を高める研修に主体的に取り組む。	B			
	<b>7 &lt;情報研修&gt;</b> わかる授業のためのICTの効果的な活用法及び情報モラル等、情報活用能力の向上に関わる実践的な研修を行う。	B			
<b>【教科指導】</b> 基礎的・基本的な知識・技能の習得を図るとともに、思考力・判断力・表現力及び自ら学ぶ意欲や態度を育てる。	<b>8 &lt;基礎・基本の定着&gt;</b> 指導目標と評価規準を明確にした指導計画のもと、基礎的な知識・技能の定着と思考力・判断力・表現力を育てる授業づくりに努める。	B	・習熟度に応じたコース別学習に少したが取り組むことができた。 ・話し方にこだわり、子どもたちの良い話し方を広めたことで、形式的なところはあがるが、話ができる子が増えた。 ・ハンドサインを活用するよう指導してきたので、話し合い活動が少しずつ成立してきた。	・一人一人の苦手なところ、得意なところが分析できつつあるので、3学期にはそれをいかして個々に対応できるようにしたい。 ・「聞く」ことはできるようになった。「話す」ことについて話し方の指導をする必要がある。 ・誰もが、自信を持って話せるように言葉かけをしていきたい。	
	<b>9 &lt;個に応じた指導&gt;</b> 指導内容の系統を踏まえ、一人一人の学力や学習状況に応じた多様な指導方法や体制・評価を工夫改善してきめ細かな指導をする。	B			
	<b>10 &lt;学習集団&gt;</b> 「聞く・話す・書く」の基本的な学習姿勢を確実に身につけ、学習集団の質を高める指導を充実する。	A			
<b>【道徳教育】</b> 自己を見つめる力と他を思いやる心を育てる。	<b>11 &lt;全教育活動を通じた道徳教育&gt;</b> 道徳の時間と他の教育活動との関連を明確にし、全教育活動を通して道徳教育を充実させる全体計画や指導計画の工夫改善をする。	B	・学年部で道徳の授業研究をし、指導の改善を図ることができた。 ・自己を振り返る時間を多く取ることができた。 ・委員会や担当を中心として、掃除への取り組みが変わってきている。 ・挨拶、美化に関して、児童の意識がでてきた。 ・挨拶を地域に広める活動が仕組まれていてよかった。	・道徳コーナーの充実と維持を心がけていきたい。 ・自己を見つめる指導がまだまだできていないので、今後の重点としたい。 ・教師の切り返し発問について考えたい。 ・地域での挨拶の取り組みを継続的に行う必要がある。	
	<b>12 &lt;道徳の時間&gt;</b> 道徳の時間のねらいを明確にし、児童生徒が道徳的価値に気づいたり、自己を見つめたりすることができる指導過程や指導方法を工夫する。	B			
	<b>13 &lt;心を育む体験活動&gt;</b> あいさつ、美化、ボランティアへの取り組みを、学校・家庭・地域社会が一体となって推進する。	B			
<b>【小学校外国語活動】</b> 外国語を通じて、コミュニケーション能力の素地を養う	<b>14 &lt;指導計画・指導体制&gt;</b> 一人一人にコミュニケーション能力の素地が養われるよう、指導計画にもとづき指導目標と指導内容を明確にして取り組む。(小)	B	・ALTを中心として、3小学校同じ指導がされているので、中学校後も大差なく学習が進められるはずである。 ・担任教師の出場の機会を増やしている。	・ALTが中心となって進めているので、英語が苦手な教師も負担が少なくて済むが、高学年になるほど意欲が薄れているのが課題。 ・模範授業を公開し、担任主導の授業づくりを提案する。	
	<b>15 &lt;指導過程&gt;</b> 学級担任が主体となり、積極的に外国語を用いてコミュニケーションを図ることの楽しさを体験する活動を工夫する。(小)	B			

町の重点	評価の観点	評価	成果	来年度の課題と改善策	学校関係者評価（意見）
【総合的な学習の時間の指導】 探究的な学習を通して、よりよく問題を解決する資質や能力を育てる。	16 <全体計画・指導計画>小・中学校の接続を踏まえ、ねらいや内容、他教科との関連等を明確にした全体計画や指導計画を工夫改善する。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域にあるさまざまな施設や場所、そこで働く人や伝統を守る人などに関わらせて学ばせることができ、地域への理解や子どもの思考が広がった。</li> <li>・図書やパソコンを使って意欲的な調べ学習を仕組むことができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どうしても体験的な活動の一時集中に集中してしまい、体験をじっくり反省して深め、子どもの意識を次につなげていくことが難しい。</li> <li>・体験活動と言語活動の意図的・計画的な設定を増やしたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校で意図的に体験活動をさせてもらってありがたい。</li> <li>・どの子どももみのり発表会でがんばっている姿を出していた。その子その子に力をつける場が確保されている。</li> </ul>
	17 <探究的な学習>身に付けた知識や技能を相互に関連づけ、総合的に働かせるよう、体験活動と言語活動を意図的・計画的に設定し、探究活動を展開する。	B			
【特別活動】 所属感を高め、よりよい生活や人間関係を築こうとする自主的・実践的な態度を育てる。	18 <自発・自治的な活動と指導計画の工夫>自己の生き方について考えを深めるような指導計画を工夫し、児童生徒の自発的、自治的な活動を位置づけ実践する。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動会や委員会の当番活動では、責任ある行動が取れていた。</li> <li>・委員会活動の中で一人一人に担当の仕事を持たせることで責任をもって活動に取り組むことができるようになった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童が振り返る足場として、常に学級目標を意識しながら取り組みを行い、学級のカラーを出していく。</li> <li>・現在の委員会の活動に担当の工夫が欲しい。</li> </ul>	
	19 <評価>集団や社会の一員としての自覚を深めるため、児童・生徒会活動や学級活動等において、個々の活動状況を見届け、一人一人の良さや可能性を認め励ます。	B			
【生徒指導】 共感的な理解に徹し、自己指導能力を育てる。	20 <生徒指導（教育相談）体制>いじめ問題や不登校・暴力といった生徒指導上の諸問題に対して、未然防止や早期発見に努め、組織的に対応を図る。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・気になる姿を見つけたら、報告し、共通理解のもとで対応できた。</li> <li>・教育相談の時間を確実に確保し、児童の話が聞けた。</li> <li>・「ちくちく言葉」「ぼかぼか言葉」の取り組みは、子どもたちに意識させる機会となった。児童会の発表も工夫されて印象に残った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育相談の機会をさらに意図的・定期的に設定する。</li> <li>・全ての教師が児童のよさを「何らかの形」で認め、保護者にも伝え、累積していく取り組みをしたい。</li> <li>・保護者への啓発が弱いのので、通信などで『命』の大切さを広げていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・叱ることはみんなで叱ることが大切。ある程度は見守って、見過ごしてやることも必要。</li> </ul>
	21 <学年・学級経営>一人一人が個性を發揮し、存在感・所属感を感じるよう児童生徒のかかわり合いを大切に学級経営を充実する。	B			
	22 <生命尊重・倫理観・規範意識>命の大切さや基本的な倫理観・規範意識を体得できるよう、繰り返し指導する。	A			
【進路指導】 自己の生き方を考え、主体的に進路を選択できる能力や態度を育てる。	23 <勤労観・職業観>学級活動における進路指導と関連させた体験活動（職場体験、係活動、清掃・奉仕活動など）を通して、働くことや奉仕することの尊さや喜びを味わえるよう指導・援助する。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校全体・静かに掃除ができるようになった気がする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・さらに、静かに掃除をすることを徹底し、仁木の伝統になるとよい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校長先生の「夢をもつ」子どもは目標をもっていれば自分の特技を發揮する。学校の中で一人一人が力を發揮できる教育がなされているか、どこで、いつ花を咲かせるか個人差がある。学校は場を用意してやってほしい。</li> </ul>
	24 <ガイダンス>一人一人の進路希望や能力・適性を生かすことができるよう、個に応じた適切なガイダンスを行い、進路学習や進路相談を充実する。（中）	B			
【健康教育】 運動に親しみ、進んで健康で安全な生活を送る態度を育てる。	25 <保健・安全・食>児童生徒の生活習慣や心身の健康状態を的確に把握するとともに、他の教育活動との関連を踏まえて「保健・安全・食」に関する指導を工夫改善する。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・わくわくお弁当の日の取り組みで、児童・保護者の食への関心や意識を高めることができた。</li> <li>・生活習慣について、実態を把握し、食生活などが気になる児童には、声かけを行い、改善に努めた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・危険予測ができるように、引き続き、指導する。</li> <li>・食事の挨拶・箸の使い方・食器を美しくもどす・立ち歩かないなど、マナーを指導していきたい。</li> <li>・体育で遊具を使ったサーキットトレーニングも取り入れて、基本的な体の動きを身につけさせたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・おにぎりの試みがとてもよい。ご飯の炊き方を自分も親に教えてもらった。</li> <li>・体を保持できない子が増えた。</li> <li>・遊び不足を学校でも補いたい。</li> </ul>
	26 <運動推進>児童生徒が課題や願いをもって積極的に活動に取り組み、日常的な運動実践の場や機会を充実する。	B			
【特別支援教育】 一人一人の教育的ニーズに応じ、自立し社会参加するための基盤となる力を育てる。	27 <校内支援体制>全教職員の共通理解のもと、特別支援教育コーディネーターを中心に校内支援体制を整備し、関係機関との連携を図る。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・困っている児童に対し、支援の方法を具体的に相談し、スムーズに支援することができた。</li> <li>・1年、3年、4年の子らが交流で学習するときの支援体制ができてきた。</li> <li>・連絡ノートや電話のやりとりで、保護者と連携をとり、指導できた。全体に落ち着きつつある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特支の子どもたちとのかかわり方について、もっと周知徹底していく機会を設ける。</li> <li>・特別支援学級の児童も自分たちと同じように個性として認めていける心の成長と関わり合いができる人間としての高まりが必要である。折を見ては特別支援学級の担任にも話をしてもらおう機会をもつとよい。</li> </ul>	
	28 <個別の支援>保護者や関係機関との連携の下、一人一人の特別な教育的ニーズに応じて、個別の指導計画や教育支援計画を作成し、指導内容や方法、教材教具の工夫に努める。	B			
	29 <交流及び共同学習>特別支援学校や特別支援学級と通常の学級の児童生徒との交流及び共同学習を計画的に行い、社会性や豊かな人間性を育むことができるよう指導の充実を図る。	A			
【人権同和教育】 不合理な差別をなくし、人権を尊重するあたらしい人間関係を醸成する。	30 <人間関係の構築>互いのよさを認め合う、温かく思いやりのある人間関係を形成する指導を工夫する。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ひびきあいの日の取り組みで、ぼかぼか言葉が広まり、学校全体が温かい雰囲気になった。学級でもちくちく言葉がぐっと減った。</li> <li>・幸せプロジェクトの取り組みはよかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常の職員の言葉遣いは、充分に気をつけていきたい。「さん」付けで呼び合う。</li> <li>・相手を大事にすることを引き続き指導し、言葉遣いの指導をしていきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ぼかぼか言葉」「ちくちく言葉」のように、分かりやすく子どもに指導してもらっている。根気よい指導が大切だ。</li> </ul>
	31 <いじめ・差別の解消>いじめや差別を許さない学校・学級作りに向けて全校が一丸となった取組を継続的に行う。	B			
【情報教育】 教育の情報化を推進するとともに、児童生徒の情報活用能力を育成する。	32 <情報活用能力>情報活用能力における児童生徒の実態を把握し、段階表に基づいた系統的な指導に努める。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パソコンが得意な子の様子を見せながら、意欲的に取り組ませることができた。</li> <li>・個人情報に関して、社会の時間も含めて扱えた。（写真の撮影許可）情報モラルに関する指導が適宜行われている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報機器に触れる機会を増やしたい。</li> <li>・情報活用段階表が曖昧になっているが、中学校までにつけておかなければいけない情報能力の指導を必要に応じてきちんと行う。</li> </ul>	
	33 <情報モラル>情報モラルについて、意図的・計画的な指導を行う。	B			
【ふるさと教育】 「ふるさと輪之内」に学ぶ態度と輪之内を愛し、誇りに思う心を育てる。	34 <ふるさと学習>地域を知り、理解するための活動や地域人材を活用した授業を展開するなど、地域に根ざしたふるさと学習を積極的に推進する。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総合学習の絡みで、多くの地域の方に支えてもらった。ありがたかった。</li> <li>・総合的な学習の取り組みを通して、地域の思いや願いが理解できてよかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学年ごとに、仁木小の特色ある学習活動として、即実践に移れるように、マニュアル化していく。</li> <li>・「活用バンク」のような人材リストや学習フローチャートがあると分かりやすい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どの子どももみのり発表会でこんながんばっている姿を出していた。その子その子に力をつける場が確保されている。</li> </ul>
	35 <国際交流>中国（小）やカナダ（中）との交流活動を通して異文化に対する理解を深める。	B			

※評価欄の記号 A:十分達成している B:おおむね達成している C:やや不十分である D:不十分である



